

弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要 (第3回)			
日時	令和4年10月3日(月曜日) 18時00分～20時00分		
場所	弘前市役所前川新館6階 大会議室	傍聴者	2人
出席者 (20人)	委員 (15人)	佐藤会長、野口委員、藤岡委員、下山委員、大藪委員、大村委員、大西委員、鴻野委員、安田委員、大塚委員、葛西委員、斎藤委員、花田委員、松山委員、女川委員	
	執行 機関 (5人)	市民協働課	高谷課長、村田課長補佐、菊池主幹兼協働推進係長、工藤(慶)主事、片岡主事
会議概要			
1 開会			
2 議事			
<p>条例に関する事業の実施状況の評価及び改善点等について審議 「協働の自覚につながる情報発信の取り組み」</p> <p>(1) 第2回審議会(9/2開催)での主な意見の報告</p> <p><b>【事務局から説明】</b></p> <p>会 長：前回の報告をしていただきましたが、何か補足や修正等付け加えることはございますか。</p> <p>それでは前回のご意見のまとめについては、このとおりとさせていただきます。</p> <p>(2) 市と市民が共通の課題に対して協働するための市(各課)の情報発信 <b>【市の取り組み状況を事務局から説明】</b></p> <p><b>【各委員の意見等】</b></p> <p>会 長：ありがとうございます。今日の審議の内容について明確に説明していただきました。市民生活に関わる市の事業が、非常に膨大に増えているので、今までのようなレベル、水準を維持していくためには、どうしても市だけの労力や知識や技術だけでは不十分になってきている。市民の知識や技術や労力も一緒になって市の公共の事業に加わっていかないと、我々の生活の維持向上ができないということが、こう</p>			

いった事例からも見てとれるかと思います。

それで今日は「協働の自覚につながる情報発信」ということでご意見を伺ってまいります。今事務局から説明がありました、資料2に記載されている、審議の視点、三つ視点が用意されていまして。「協働によるまちづくりに取り組みたい」という市側の熱意が伝わる情報発信となっているか、二番目は協働の自覚につなげるため、「市と市民が一緒に作り上げる過程」を理解できる情報発信となっているか、三番目は「協働によるまちづくり」の一員として地域課題を自分事として捉え、市の取り組みへの積極的な参画につながる情報発信となっているか、といった三点から、説明いただいた資料に示されている取組みについて、今の審議の三点、観点からご議論、ご意見をいただきたいと思いますが、視点一つ一つに分けて、ご意見を伺ってまいりたいと思います。

そこでまず、視点①「協働によるまちづくりに取り組みたい」という市側の熱意が伝わる情報発信となっているか、あるいはそのような情報発信にするためにはどうしたらいいか、ということについて、資料を土台にしながら自由なご意見を伺ってまいりたいと思いますが、事務局から改めて視点の主旨などを説明いただきたいと思います。

**【視点①の主旨を事務局から説明】**

会 長：よろしいでしょうか。それではご自由に、資料を踏まえてでも結構ですし、または資料に捉われることなくこの審議の視点の①について考え、思ったことをご発言ください。

委 員：「協働によるまちづくりに取り組みたい」という市側の熱意、という表現ですが、条例によって決まっているものなのだから、協働によるまちづくりを推進していく、強力で押し進めていく、その先立ちとなる、ということだと思います。

会 長：そもそも市が、もっと積極的に取り組んでいく姿勢を示してほしいというご意見かと思います。その他いかがでしょうか。

委 員：事務局の説明の中の、事例①の東地区のカメラ設置と、②石川地区の施設の両方とも、地域に深い関係があるので、地域の方にとっては、

自分たちのこととして捉えやすい、参加しやすい題材であるということで、その二つを比較して情報発信しているのを見ると、片やカメラの方は、市民協働課が手掛けているので、資料を見ても最初になぜ皆さんの声が必要で、参加が必要なのかという、目的、みんなが参加するところというのができる、こういうことがやりたい、ということをはっきりさせて参加してもらい、期間が長いので、途中途中でちゃんと経過を説明している。なので、例えばその時参加しない方や、ちょっと興味がない方であっても、自分のところに回覧や広報でも回ってくると、今こういうことが地元で行われている、参加してやっているということがわかることで、少し身近に感じることができると思っています。そういう意味では、一番初めに参加の意味とか目的を示して、その後細かく経過を説明するということが非常に大事なのではないかと感じています。

石川地区の方は、担当課が学校整備課で、施設を作るということなので、資料だけで見ると、手続き上住民に説明し、意見を聞いてそれを計画に反映させるプロセスを作らなければいけないという事務的な情報発信になっているように感じるので、前者の東地区に比べると、住民に響きにくい、役所で何かやっている、くらいに捉えられる雰囲気があります。色々担当課から協働に関する情報発信や住民への呼びかけはしていると思うのですが、2回目の審議会の報告でも「全庁的に…」とありましたが、各担当課がどれだけ協働のまちづくり条例に関係する事業をやっているかという意識、今自分達がやっているのは住民の参加が必要で、協働して作り上げていくというところからスタートしているかどうか、協働をもっと求める意識があればいいな、と感じていました。情報発信のうえで市民協働課とどこかでつながってできればまた雰囲気が違ってくるのかと思うのですが。

会 長：市民協働課と打合せしてやると中身も少し濃くなるというか、市民協働課の存在が大きいということですね。確かに何かしらやらないといけないから市民から意見を聞いているみたいな感じがするものもありますよね。

委 員：東地区の件も、石川の件もですが、元々は住民から出た要望に対して、

行政が応えて住民と行政が一緒になって作り上げていった何かができ、それに対して情報発信というここですべて言っている資料については、その住民に対してだけその過程や展開を情報発信していますよね。しかしここで協働についての情報発信というのは、住民から要望があったものに対して市民と行政が一緒になって作り上げてきたということ、全市民に情報発信するのが目的ではないのでしょうか。例えば広報ひろさきで特集を組んで、紹介するとか。それであれば情報発信としてわかりますが、この資料は単なる住民への説明であって、このことと情報発信というのは本筋が違うと思います。他の地区にも関係ない他の市民にも、こういうことをやっているというのを届けるのが情報発信であって、住民への説明会の話はこれでは情報発信しているというのは少し違うと思います。

委員：弘前市と町内会活動、町会というのはもっと密接な結びつき、絆が必要なのではないか、と思っています。町会活動というのは町内に住んでいれば隣近所の付き合いを感じていけないといけないのが基本なので、まず町会がどんな活動をしているか、ということから始めよう。まず動くことが大事と思って、コロナで町会活動そのものが沈んでしまって、敬老大会や定期総会ができないとか、役員の担い手が少ないということで動いています。

会長：今やっていることの他に、こんなことをしたらいいかなというご意見はありませんか。市がもっと協働していけば町会活動を理解してもらえる、ということで。

委員：問題が大きすぎて、何から手を付けていけばいいかというのはあります。ゴールがない、と思っています。少なくとも手に届くような所から始めようと思っています。町会長さん達の意識が参加しようとする意識付けをすることから始めるなど。

会長：意識付けをするために、市民協働課と協働してやることはありませんか。

委員：まったく無料ボランティア活動なので、例えば学校の先生や市役所を退職した方々に少なくともお願いできるような状態にするとか。

会長：そういう退職した方を対象として活動してもらえるように、市民協働課かどこかと協力して。退職した方は知識や技術をお持ちでしょうし、まだ若いですからね、そういう方々に情報が伝わるようお願いすることを考えていけたらいいですね。

委員：「協働によるまちづくりに取り組みたい」という思いを持ってもらうためには、情報を届けたいターゲットごとの工夫が必要かなと思いました。防犯カメラであれば、会議に参加している参加者を見てみると、年配の、特に男性中心の所があると思っていて。高齢者の引ったくりのような犯罪の対応であれば高齢者への呼びかけも大事だと思いますが、例えば女性を対象にした犯罪が目立つというのであれば、女性の声をどんどん拾っていき、女性も参加しないと、という思いをかきたてるような発信が必要かな、と感じました。町会の加入であれば、大学生の町会加入も課題としてあると思うので、大学生にとって町会に加入するメリットや加入に当たっての不安に対してどのように情報発信するかで、この前他の委員から SNS の話がありましたが、Facebook は今学生あまりやっていないので、違うツールでというのも学生には必要かなと思いました。石川地区については学校とか児童館など統合することによって、統合先が子供達のアクセスの問題で、子供の意思だけで行くのは難しい子も恐らくいる、高齢者にとっても今の公民館から新しい公民館になると橋を渡って、という所で抵抗感があるので、今回はアクセス難という課題一つにターゲットを絞って、意見を聞きたい、となれば、保護者や高齢者の方も参加しやすくなるのでは。ターゲットごとの呼びかけを工夫すれば良いのではと思いました。

委員：私が所属する団体でも事業をやっているのですが、一番の課題が情報発信が難しいということで、他の委員の方が仰られたように、ターゲットを絞るとするのがとても難しいです。過去何回か事業をやってきて、大成功したというのがなく、その理由が本質を捉えていない、何のために情報発信をしているか、やって満足になってしまっている所

が多くて、情報発信した後の結果を追ってこなかったのも、アクセス数であったり、いいねの数であったり、数値化して何か引き落としとして、これだけやったら何か効果があるということで、目に見えることをやっていかないと、報告だけに終わってしまうことが多いです。私自身協働という言葉すら知らなかったのですが、そういう方が多いと思います。協働という言葉は知らないけれど、こういうことをやってみたいという方は結構多いと思うので、そういう方と市民協働課がハブ的に、相談して、市民協働課からここに声がけして、という形になっていくと持続的になる気がします。

委員：東地区や石川地区など、住民とのやり取りも大切だとは思いますが、市民全体にもこういうことをやっているのが分かるために市でホームページなどをやっているのかなと。それをどのくらい見ている人がいるのかという所が問題かと思えます。できるかは分かりませんが、テレビのボタンを押せば市の情報が分かるというものがあると聞いたので、テレビであれば市民全体に、こちらの地区ではこういうことをやっている、じゃあ自分達の地区も同じことができるから聞きに行こうという感じで全体に広まるのではと思います。

委員：テレビで青森と八戸の情報は見ますが、なぜ弘前は県内三番目の市町村でメインの放送局に情報を載せないのか不思議に思っています。確かに地域に密着した放送局も必要だとは思いますが、市に住んでいても、他の地区の情報や災害など、広い情報も欲しいので。前回もメディアを使った方がという意見もありましたが、生活していて、メイン局に情報を流した方が伝わりやすいのではないかと思います。

委員：私も前から思っていたところですが、今まで住んできた自治体すべて、コミュニティテレビがあって、そのおかげで災害の具体的な地域の情報や、地区の取り組みなど映像付きで入っていて、自分の住んでいる地域以外の情報も得られたと思っていたのですが、弘前に引っ越した時に、その存在がないということで、存在が結構大きかったと思っています。弘前市としても、YouTube というのもあるとは思いますが、テレビであればリモコンを押せば情報が入ってくるので、高齢者の方に

も情報が入りやすいと思います。

委員：私もどちらかというと、情報発信というと広くどれだけ多くの人にたくさんの情報を届けることと思っていたのですが、今回の諮問事項である、「協働の自覚につながる」というのがポイントではないかと。審議の視点で後に出てくる③の「自分事」という言葉があるのですが、これを考えたときに、全体に発信する広報やメディアもすごく大事ですけど、果たして弘前市民の皆さん、と言われたとき、私は自分事として捉えられるかということ、それよりも東地区の皆さん、どこどこ町会の皆さん、とどんどん距離が近くなることによって、少し自分事として捉える、自分のことだからという考えが少しつながっていくのではと思います。全体に対する大きい周知など広報と合わせて、並行してターゲットを絞った情報発信が必要ではないかと思います。例えばスポGOMIも、広報に大きく出して有名になってきているので、いろいろな参加者を呼び掛けるものがあるのも良いのではと。駅前とか駅裏でやるのであればそこに住んでいる人や町会の方とか、学校、事業所とか。自分たちの住んでいる所を綺麗にしましょうというアプローチで、自分事に近い所の発信というの、広報と並行してやることによって、少しでも自覚につながる部分も出てくるのではと思います。

委員：転入者の方は、転入したときに自分がどこの町会に属するのかを教えてくださいただけるのでしょうか。

委員：一つ確認ですが、弘前市に住民票を持っているかいないかということ、町会に加入するか、しないかということは関係ないですよ、住民票を持っていなくても、町会に加入したいと言えば加入できますよね。

委員：そうです。

委員：それを踏まえてですが、学生も4年間という短い時間ですが、色々な年代の方がいた方が盛り上がるのではと思います。情報とか交流もあった方が、居て安心する地域じゃないかと思うので。大学生協や不動

産屋と組んだりして、あなたはこの町会になるから、町会長は誰でもここにいて聞けばいいよ、というのがあれば良いと思いました。

委員：例えば桔梗野の町会であれば、会館に弘前大学の学生中心に学生団体が出入りしていて、町会ともつながりはあると思うのですが、そこから要望を展開していくという意味でも、この意見は大事だと思います。

委員：学生が町会に入らないのは町会費の問題ではないでしょうか。私も知らなかったのですが、町会によって町会費が違います。私の住んでいる地域は町会費が安いので、学生も入った方が色々とサービスを受けられるからお得だと思います。でも町会費が高い地域もあるみたいなので、学生は学割とか会費なしで登録制にするとかあれば良いのですが。何か災害があったりすると、大学のサポート以前に隣近所からの情報が必要になってきますよね。そうすると長い目で見なくても自分の近々の生活においても、町会に加入しているということは大事なことだと思います。何かあった時に、大学よりも町会の方が近いので、検討してもらえればと思うのですが。

委員：町会加入者を増やすためには、若い力を得るために、学生については町会費を免除する、と決めて加入させるというのは良いのではないのでしょうか。

会長：町会は会費が世帯単位ですよね。それを、災害などがあるので、高校生が会員になったり、中学生も会員になったりという町会も増えているそうです。世帯単位でなく、個人単位も考えてみたら良いと思います。

委員：良い意見、参考になりました。私の町会には、アパートが結構あります。その大家さんが町会に入っていて、大家さんが全部面倒見という方もいらっしゃいますが、大家さんが町外や他市町村の方が多いです。その時は大学生生活協同組合が一括して清掃やごみの処理については有料でその地域を管理するという形になっています。



委員：町会については、町会費の問題もありますが、加入世帯というか加入率が低いと思われる学生も含めた若年層について、加入したら何があるのかという目的があまり分かっていない人が多い気がします。この資料でも加入したらどうなのかという目的があまりぱっとはわかりにくいというか。災害とか、目的をはっきりさせてもいいと思います。それは今回の資料の、町会だけではなく、他の取り組みでも、もう少しこういう目的で、こういう活動していますというのを全般的に意識してもいいという認識を持ちました。

委員：町会の話を知って、私も今までずっと弘前に住んでいて、町会について考える機会が無くて、今回の資料や皆さんのお話を聞いてよくわかってきたところです。その学生割のシステムがあれば、というのは私も良いと思っていて、目的とかメリットが分かりやすかったら、学生も学割があれば魅力的で入りたいと思います。

会長：学生向けの、学生と町内会の関係のようなチラシを専用で作るとかあれば良いですね。  
それでは第二の審議の視点に移りたいと思います。

#### 【視点②の主旨を事務局から説明】

会長：今のような主旨で、第二の審議の視点を設けた、とあります。市と市民が一緒に作りあげる過程を、きちんと情報発信するにはどうしたらよいか、こまめに情報発信していくにはどうしたらよいか、ということです。

委員：町内会の話もあったのですが、9月に私が住んでいる所で町内会の一斉清掃があって、朝の5時、6時くらいに、私の家の前の側溝の泥上げを5、6人の有志の方が来てやってくださって、非常に助かったんです。やらないといけないと思っていたので、だいぶ負担が楽になりました。でも、他にも泥上げしないといけない所があって、私は協働のこの審議会に参加させていただいているので、他の所は私もやりました。その時私としては協働の自覚があるのですが、それを自分で発信するか

たとえば、SNS なりで発信はしなかったんです。でも、町内会の皆さんは、町内会だよりで泥上げをやったという発信はしていて、回覧板で回ってきたので確かにやったということは伝わってきたんです。じゃあ私がどうして発信しなかったか、一緒に参画したのに。その理由は自分だけ発信すると、少し恥ずかしいというか、自分がやっている感じが出るのが恥ずかしいという壁を乗り越えることが自分にはできなかった。なので、誰かに取り上げてもらった方が、今の段階では発信につながるのかな、と。そういう小さい例はいっぱいあると思うんです。私の父親もゴミの集積場で、朝門番のように立って、ラベルを取っているかとか、監視でもないですけどやっているんです。これも私は協働だと思うのです。でもそれをうちの父親はこういうことをやっている、と発信するのがまだ市民目線のハードルが高いな、と。ハードルを下げていくのが必要ではないかと思います。1%システムの事例とかたくさん取り上げてくれていますが、小さい事例でも取り上げていくところから始めると、少しハードルも下がってくるのでは、というのを私自身感じました。

会 長：学生ジャーナリスト No.1 決定戦なんかで色々取り上げていると思うのですがね。

委 員：先ほど話しさせていただいたコミュニティテレビ的なもので小さな取り組みの部分に焦点を当てて、映像で発信するというのもあったので、そういう意味では映像での発信というのは、実際あの人頑張っているなら自分も頑張ってみよう、というのも起こるかもしれないので、大事になるのかなと感じる所はありました。

会 長：その他いかがでしょうか。市と市民と一緒に作り上げる過程で。先ほど冒頭で意見いただきましたが、小中学校の整備で、一緒に作り上げているプロセスが伝わってこないというご発言をいただいたと思うのですが。

委 員：東地区と石川地区と、与えられた資料の中から見ると、東地区の方は開催しましょうということで声がけして、開催したら必ずこういう風

に開催しましたという報告があつて、どういう意見が出たかというの  
も出て、そこできちんと市民の意見が出ていて、それがどういう風に  
反映されたのか、通らなかつたのかという過程がすぐ見えるというか。  
東地区の皆さんに対してだけで、それを地域の皆さんには過程が伝わ  
る、そういうのがあると、参加していない人でもそういうやり取りが  
あつて、作り上げている過程が見えてくるということですのでごく手間が  
かかって大変だとは思いますが、大事なことだな、と。石川地区も  
もしかすればあるのかもしれないですが、説明会を開催して、参加す  
る方は住民の数パーセントかもしれませんが、住民説明会でどんな意  
見が出たか、どういう課題があるかを石川地区全住民に伝えて、また  
新しい課題も提示して、そこから何か次のステップに持っていくよう  
な、情報発信して受けて、発信して受けてというやり取りをこまめに  
やるのが面倒くさいですが効果的ではないかと思います。

会 長：東地区のやり取りが、一つの理想的なものを表しているというこ  
とで  
すかね。

委 員：石川地区の件は、弘前市内でもちょっと特殊で。小中一貫校という地  
区もあるのですが、石川の場合はそれと地域の公民館などの地域活動  
の組織も全部含めて、小中一貫の教育だけではないという所から長い  
時間をかけて作ってきたという所です。だから、住民説明会について  
の案内はしようとしたけど、その結果行政と住民がどういう話し合い  
をしてその結果どうなったかという過程が見えてこないのです。この  
視点でいう所に「市と市民が一緒に作り上げる過程」というのはそれ  
だと思ふのです。その努力が足りないというか。

委 員：先ほど委員が「自分はやったけど、それは自分では言えなかつた」と  
いう意見がありましたが、小学校とかには、あの人が良いことをした、  
ということを貼る木みたいな、掲示するのがありますよね。そんなイ  
メージで広報とかでも、ほんとに低い所から、こんなことをした、こ  
れは私でもやってると気づかせるような、そういうのを作ったらどう  
でしょう。

- 会 長：そういう活動が、活発にわかることで協働につながっていきますね。
- 委 員：町内会活動の町会だよりで、コンクールをやりました。町会だよりの良いところとか募集して、賞を決めて賞金を出したのですが、その積み重ねが大事だということを我々が気づいて、その町会だよりを例えば年3回でも4回でもいいから出していこうと、気分を盛り上げていくのも大事だということで今取り組んでいます。状況をいかにして地域住民に伝えていくかということが大事なことだと思います。これを1回で終わるのではなく、2回、3回と積み重なった結果がどうなったのか、1回目の時の反省点を2回目、3回目にその結果、士気が上がったのかどうかというのがやっていることに対する一つの評価で、各町会に浸透して広がっていくのではと思います。
- 委 員：市民協働課と他の課の連携というのが、最初疑問に思っていて、横のつながりというか。東地区では、市民協働課が協働を意識しているので懇切丁寧にしていると思います。でも他の課は協働を意識してというのは市民協働課と他の課とで何かパイプがつながっていて話をしたりはならないですかね。
- 事 務 局：個々の事業について、市民協働課と担当課が協働してということはないですが、この審議会での答申や、毎回審議会でこのような意見が出ましたというのは庁内にも毎回細かく発信はしています。
- 委 員：仕方のないことだとは思いますが。市民協働課として、他の課に少しでも情報交換できる何かがあれば、各課の意識が上がって、途中の過程の発信も何か参考にできるのではないかと思うのですが。
- 会 長：今日の資料2の【取り組み内容】がありますが、「市と市民が共通の課題に対して協働するための各課の情報発信」とあるので、各課で情報発信するのは良いと思うのですが、各課の中に、市民協働課も入っているとは思いますが、市民協働課と他の課では立ち位置が違うと思うのです。市民協働課の役割というのをどう捉えるかということを考えてほしい。各課がやる協働もあるけれど、市民協働課は何をなすべ

きか、その役割を明確にしていくべきだと思いました。

委員：スポ GOMI 大会についてですが、資料を見ると、参加チーム募集というのは広報ひろさきに出していますが、結果はホームページにだけ出して広報ひろさきには出さなかったんですね。見たら 99 人も参加しているので、せっかくだから情報提供の仕方として結果も出すと、市と市民が作り上げたのが分かると思うのですが。

委員：前は情報発信の方法を思うような媒体を使うかという話で、若年層に目が向いていましたが、やはりインターネットを利用しない人にも情報を届けるためにはどうしたら良いのかという方法を考えていかないといけないという課題が分かったと思うのです。それで今回は「協働の自覚につながる情報発信」ということで、協働は本当に重要なことだと思うのですが、あまり協働協働と言われると協働したくなくなる、知らない間に巻き込まれたいというのがあると思うのです。やっぱり自分事にしていくためにはまた課題が見えたと思いますが、告知、予告というのは一生懸命しますが、結果の場合は結果が伴わない場合もあるので、闇に葬られるというか。やはりこの過程を出していくことによって広く狭く取り組みが行われていて、それが進行しているとか、たくさんの方が参加しているとか。また、何かしらのインセンティブというのが必要になってくるときに、ここではこういう人が活躍しましたよ、という過程を予告していく中でできるのではないかと考えました。それで前回の課題に戻って、ではどういう方法でという所が一番難しいのではないかなというのを今日お話を伺いながら考えていました。コミュニティテレビもあればいいのですが、広報ひろさきも載せるものが多すぎて、弾かれるじゃないですか。情報がたくさんあり過ぎても、素直に見ていいかわからないし、それをどうやって選別するかとなったら、何か丁寧に追っていくようなものを作って、それに付随して情報を流していくとか、何か系統立てるような仕組みをこれから考えていく必要があると思いました。

会長：ありがとうございます。委員から「自分事として考える」という言葉が出てきましたので、三番目の視点「協働によるまちづくりの一員と

して地域課題を自分事として捉え、市の取り組みへの積極的な参画につながる情報発信となっているか」という議題に入りたいと思います。

【視点③の主旨を事務局から説明】

会 長：改めて、一番大変だと思いますけど、地域課題を自分事として捉え、ということで、地域課題に対して「誰かがやってくれる」と他人事に感じている人が多いため、一人ひとりが自分事として捉えて行動に移せるような、情報発信の工夫ということで、一番の出発点のような問題かと思いますが、ご意見をいただければと思います。

委 員：スポ GOMI の取り組みを見ていて、ここはいいなと思うのが、環境問題というかゴミという問題に対して楽しさという所を前面に出して、色々な人を呼んでいるという所があったので、地域課題となってしまうと堅苦しさがあると思うのですが、参加する、してみたいと思うような楽しさを押し出せるような発信だとか、企画の段階でもその楽しさを意識しながらやっていただくと多くの方が興味を持ってくれるのではと思いました。

会 長：ストレートに地域課題、別の何か人のためにという言い方もあれば、人のためにやるのがあなたのためという色々な視点から組み立てると良いということですね。

委 員：楽しさを出せれば。

委 員：地域課題というのは、その地域ごとで違うのではと思います。なので今自分の町内会なり、自分の所属している地域の課題とは何か、ということが自分には言えない。それをまず知ることができていない状態というのが問題だと思います。自分事にもならない、問題意識にもならない状態じゃないかと。前までだったら、話し合いをする場が町内会単位であったのですが、コロナでできなくなってしまって、うちは班長でよく広報誌を回すので、その時に近所の方に声をかけます、今日暑いですね、大丈夫でしたか、と。そういう人があまり地域にいな

いのではと。課題を吸い上げる人が誰かというのが分かっていないのが課題だと思いました。

委員：委員が仰るとおりで、町内活動そのものは声かけから始まっていると思うのです。隣同士のおはよう、どうしてる、その言葉かけが上手くいくかいかないかというのが一番大事ではないかと。そこから始まった町内会活動そのものをいかに広げていくかというのは、情報活動と言いますか、町内のそういう状況をいかに皆さんに伝えに行くかというのが二番目で。それらの数字というか、いくらいったら良いか、そういう仕方でなく、弘前に住んで良かったという気持ちをみんなが持つような活動というのが我々に与えられた任務と思います。できれば町内会活動そのものをもっと大事にしていきたいと感じていました。

委員：地域課題を自分事として捉えるとなってますが、地域課題と言われると、どうしても、何だろう、思い付いても答えるのが面倒とってしまう所があると思うのと、すごく壮大な言葉に聞こえるのです、私にとっては。でも、みんなが日常の中でちょっと困っているな、というのはあると思うのです。そのちょっと困っていることを、他の所は難なく解決しているかもしれないことだったりするので、解決したという案を何かを使って発信していくと、自分でもこれならできるのかな、やっていこうという気持ちになるのかなと思いました。その情報発信の媒体はまだ思いついていないのですが。自分事として捉えるというか、さらっとやりたくなることにつながるかなと思いました。

会長：確かに地域課題、何かありませんか、と言われてもなかなかね、「何が食べたいか」と聞かれるとわからないけど、「何々は食べたいか」、と聞かれるとそれ嫌とか言えるんですよね、聞き方というか。色々ご意見いただきましたが、最後の問題として、協働の自覚につながる情報発信全体について、何か現在行っている情報発信のほかに、協働の自覚につながる情報発信の在り方について何か自由な視点からご発言いただければと思います。

委員：この協働に関わることに限らず、皆さんのお話を聞いていて感じたの

は、発信というのはそこそこわかるのですが、結局それが結果としてどうなったかというか、結果の発表、もっと言うと宣伝、それが足りない、下手なのかな、ということを感じています。お互いこんなことをやった、どういう成果があったということが、例えば広報ひろさきに大きく成果として載るとか。じゃあ来年は私たちもやってみようかというための宣伝がやっぱり足りない、そこが課題と思います。

委員：自分事として捉えるための協働を自分事として捉えるための情報発信ということで、人を取り上げるというのはいいと思います、この「協働の部屋」でも既にありますが、知っている人が登場すると、誰でもできることで、自分のことと身近に感じるトピックになるのではと思います。結局人がいないと社会は成り立たないし、自分事は社会のことと言いますよね。そうすると、小さい視点から感じられるというのは、自分の知っている人が公に取り上げられて、泥上げしました、雪かきしました、アジサイのお手入れしますよ、とか些細なことを大きくきちんと発信していくことが、市が協働をしようとしているという意識の啓発になるのかと思います。もうすでにやっていることだけど、些細なことだけど、実は伝わりやすい方法なのではないかと思います。

委員：「誰かがやってくれる」と他人事に感じる人が多いため、ということで、当事者意識のことだと思うのです。結果、誰かがやってくれるというのがあるので、やったらこうなった、こういう活動をした、告知や報告も大事だと思うのですが、やらないとこんなひどいことになるとかマイナス面の部分でもPRすれば、じゃあやらないと、ということになるかと。例えばこういうのやらないけど、若い人がいないから実際やりたくてもできない、ということがあると、じゃあ手伝おうという人はいると思うので、発信するにしても、明確になぜ発信するのか、何のために発信するのかというのを大事にしていった方が良くと思います。

会長：色々な目線で工夫が必要ですよね。

委員：数字で出てくるようなことも必要だと思います。協働によるまちづく



りに関する意識調査のアンケートで数字として全然出てこなかった。例えばまちづくりを何もやったことがないとかそういう数字が多かったですよね。そこから何とか意識付けをやろうということが重要ではないかと思います。

委員：Facebookとか、インスタグラムとか、何となくは分かるけれど、使い方や違いがよくわからないのが正直な所で。ホームページであれば色々な所に出しているのを目にはするのですが、そこで箇条書きで新しい情報のようなものを出すとわかりやすいのかなと思います。色々なイベントでも検索とか見るにはその方がいいのかな、と。一番単純なのは口コミがすごく功を奏していると思います。

委員：消防団も協働だということに気づいてほしいですね、それを少し前面に。女性消防団も知らない人多いですよね、それを一緒にやっている防災課がもう少し発信してくれたらいいと思います。弘大の学祭でPRというくらいしかしていないので、発信の仕方というのは自分たちでもう少し発信していければと思います。

会長：新しい意味を持った、目的を持った女性消防団ですよね。  
大変活発なご意見いただきまして、ありがとうございました。

3 事務連絡

4 閉会